



学際研究¹のための原則に関する宣言（日本語仮約）

前文

基礎から応用、伝統的領域から複合的領域に至るまで、世界中に幅広い研究活動が存在している。それらの研究はすべて知の発展を支えるために行われている。学術分野の卓越性が不可欠であると同時に、分野や地理的な境界を超越する世界レベルの知のネットワーク・システムの中で、学際研究促進の重要性への認識が高まっている。このため、研究助成機関は学際研究へ投資し、支援するために必要な整備された環境をつくり出すという重要な役割を担っている。

したがって、2016年 GRC 年次会合参加機関は、次のとおり学際研究の助成、管理及び評価を支える鍵となる原則を認める。²

原則

研究の卓越性

研究の卓越性は、GRC 参加機関が提供する資金援助の基礎となるものである。学際研究はそれ自体が目標なのではなく、また、特定分野の研究より優れている、あるいは価値があるという前提に立つものではない。むしろ、学際研究は新たな知を創造し、新たな研究活動領域や学術分野、研究方法を定義して、新たな解決策を提案するといった方法で研究にアプローチし、複雑な問題に取り組むためのひとつの手段である。

多様なアプローチ

学際研究を最も有効に支援するために、研究者主導の研究から大規模な共同研究プロジェクトまで、多様なアプローチが必要とされる。学際的な研究費支援が政府の重点課題と連動する場合、GRC 参加機関は、研究費の助成と同時に研究アジェンダの連結について積極的に関与すべきである。

¹学際研究は、2 つ以上の学術分野が共通の体系を生み出すために協働して行う研究と見なすことができる。

²本宣言文は、2016 年年次会合の合同主催者により委託作成された『学際研究に関する調査報告』の推奨事項と併せて読まれるべきである。

研究インフラ

GRC 参加機関は、学際研究を推進する上で研究インフラの重要性を認識している。新たな研究インフラの企画と開発は、すべて適切な規模で、将来的に学際研究を支援し、実現する可能性を考慮に入れて行われるべきである。

強固な支援環境の整備

GRC 参加機関は、学際性を認識し、それに対応するシステムや運用及びメカニズムを開発し実施することで、分野横断的な研究を奨励すべきである。GRC 参加機関は、学際研究への資金提供や支援の発展において協力するため、研究に関与するすべてのステークホルダーと関わるべきである。

審査・評価

GRC 参加機関は、分野的境界を横断するあるいは超える研究の審査と評価のための効果的なプロセスを発展させるべきである。

- 成果を出す学際研究の目的や潜在的なインパクトに対して敏感で、即応する、公正で妥当かつ適切な審査制度を構築するべきである。
- 学際研究プログラムの評価方式は、それらの研究活動に存在する可能性のある特殊な状況に配慮すべきである。プログラム評価を促進するための主要な業績評価の指標や代替評価メカニズムの開発は、個々の学際的な研究活動の特性や要件に対して適切なものであるべきである。

能力構築とマネージメント

GRC 参加機関は、様々な理由から、学際研究が分野に依拠する研究よりも領域がさらに入り組んでおり、実施上困難を伴う場合があることを認識すべきである。したがって、

- ある種の学際研究が他の研究に比べ困難であることを認識しつつ、言語や概念的基礎の差異を克服するために必要なあらゆる研修を含め、研究チームが効率的に組織し、分野の壁を越えて協働するという課題に取り組むための力を持てるよう、適切な資源や十分な時間枠が割りあてられるべきである。
- 各機関は、学際研究の事業やプログラムに特化して管理し、監督できる能力や資質を向上させるべきである。
- 各機関は、成果を出した学際的なイニシアチブと成果が少なかったイニシアチブの経験を共有し、そこから学ぶことが奨励される。

キャリア開発

学際研究への貢献が、伝統的な学問分野の境界内での評価に準じて正当な評価を受けられるような研究者のキャリアパスや、グローバルな研究文化の発展が不可欠である。GRC 参加機関は、研究機関における学際研究を、またすべてのキャリアステージにある研究者に対しても、それぞれのリサーチ・ポートフォリオの中で支援すべきである。